

2008度

日本魚類学会年会

プログラム

Advance Abstracts
for
the 41st Annual Meeting, 2008

期 日：2008年9月20日(土)～9月23日(火)
場 所：愛媛大学城北キャンパス

日本魚類学会

The Ichthyological Society of Japan

2008 度日本魚類学会年会タイムスケジュール

口頭発表：第 1 会場（グリーンホール）
 口頭発表：第 2 会場（1 階講 11）
 ポスター発表：第 3~6 会場（3 階講 31~34）
 総会：第 1 会場（グリーンホール）
 日本魚類学会 2008 年度奨励賞受賞講演：第 1 会場（グリーンホール）
 休憩室：(1 階講 12)
 オークション：(1 階講 13)

9 月 20 日（土）

12 : 00 ~ 14 : 30 編集委員会：2 階講 22
 15 : 00 ~ 17 : 00 評議員会：2 階講 23

9 月 21 日（日）

		8:00	8:30	10:15	10:30	12:00	13:30	15:00	15:05	16:00	17:30	18:00	18:30	20:30
口頭発表 第1会場	受付	分類	休憩	分系統 系形態	昼食	形態	休憩	男女共同 参画シン ポジウム	総会	受賞 講演	移動	懇親会 愛媛大学 大学会館	1-7	8-13
口頭発表 第2会場		生態		生態									63-68	50-56
ポスター 発表 第3-6会場		ポスター展示 99-214		ポスター 発表 (奇数)									ポスター 展示 99-214	
						12:30	13:30							

12 : 30 ~ 14 : 00 自然保護委員会：2 階講 23
 15 : 05 ~ 16 : 00 男女共同参画シンポジウム：グリーンホール

9月22日(月)

		8:00	8:30	10:15	10:30	12:00	13:30	15:00	15:15	16:45	17:00	18:15			
口頭発表 第1会場	受 付	分子遺伝 分子解析	20-26	休	分子遺伝 分子解析	27-32	昼食	分布 魚類相	33-38	休	分布 魚類相 保全	39-44	休	保全 生理・組織	45-49
口頭発表 第2会場		生態	69-75	憩	生態 行動	76-81		行動 卵・稚子	82-87	憩	卵・稚子	88-93	憩	卵・稚子 その他	94-98
ポスター 発表 第3~6会場		ポスター展示 99-214				ポスター 発表 (偶数)		ポスター展示 99-214							
							12:30	13:30				17:00			

9月23日(火)

		8:30	9:00							17:15	18:00
口頭発表 第1会場	受付	シンポジウム アユの初期生活史の多様性と地理的変異を探る									
口頭発表 第2会場	受付	シンポジウム カワバタモロコとは？ その実態と保全									

この講演要旨は国際動物命名規約で規定する出版物には相当しない。
 本年会は国立大学法人愛媛大学および財団法人松山観光コンベンション協会（松山市コンベンション開催助成金）から開催にかかる費用の援助を受けた。

研究発表プログラム

口頭発表

(1 演題の持ち時間は、発表 12 分と質疑 3 分の合計 15 分。共同発表者のうち 印は演者。)

口頭発表第 1 会場

9 月 21 日 (日)

午前の部 8:30 ~ 10:15 (分類)

- 1 8:30 ~ 琵琶湖・淀川水系から得られたゼゼラ属の未記載種
○川瀬成吾・辻 健志 (近大農)・宮崎淳一 (山梨大教)・細谷和海 (近大農)
- 2 8:45 ~ “*Lophogobius bleekeri*” とは何か
○渋谷浩一 (長尾財団)・鈴木寿之 (兵庫県尼崎北高)・瀬能 宏 (神奈川県博)
- 3 9:00 ~ *Sebastes steindachneri* Hilgendorf, 1880 は *S. wakiyai* (Matsubara, 1934) と *S. paradoxus* Matsubara, 1943 の古参同物異名
○甲斐嘉晃 (京大FSERC)・中坊徹次 (京大総博)
- 4 9:15 ~ サラサガジ属 (スズキ目: ゲンゲ科) の系統分類
○篠原現人 (国立科博)・金 益秀 (韓国全北大)
- 5 9:30 ~ バヌアツから得られたベラギンボ属の 1 未記載種
○片山英里・遠藤広光 (高知大理)
- 6 9:45 ~ カワスズメ科魚類 *Cyathopharynx* 属 2 種の形態的、遺伝的違い
○高橋鉄美 (京大院理)
- 7 10:00 ~ 鹿児島県で採集された日本初記録のヒイラギ科ウケグチヒイラギ属魚類
○木村清志・伯耆匠二 (三重大院水実)・山田守彦 (鹿児島水族館)・
本村浩之 (鹿大総研博)

休憩 10:15 ~ 10:30

日本魚類学会奨励賞 受賞講演

「魚類の生態・行動形質における集団内変異と地理的変異」

小北智之 (福井県立大)

時間 17:30 ~ 18:00 (総会終了後) 場所 第 1 会場 (グリーンホール)

日本魚類学会論文賞

「Population structure of the sailfin sandfish, *Arctoscopus japonicus* (Trichodontidae), in the Sea of Japan」

白井 滋 (日本海区水研)・倉長亮二 (鳥取県水試)・杉山秀樹 (秋田県水振セ)・

樋口正仁 (新潟県内水試)

「The *Saurida undosquamis* group (Aulopiformes: Synodontidae), with description of a new species from southern Japan」

井上健彦 (京大院農)・中坊徹次 (京大総博)

「Molecular phylogeny of the groupers of the subfamily Epinephelinae (Serranidae) with a revised classification of the Epinephelini」

Matthew T. Craig・Philip A. Hastings (スクリプス海洋研究所)

午前の部 10:30~12:00 (分類・系統・形態)

- 8 10:30~ ニューカレドニアおよびニュージーランドから採集されたカワラガレイ科カワラガレイ属の1未記載種
○尼岡邦夫(北大)・河合俊郎(国立科博)
- 9 10:45~ 異なる時間スケールにおけるカワヤツメ集団間の遺伝子流動
○山崎裕治・長井輝美(富山大院理工)・横山良太・後藤 晃(北大FSセ)
- 10 11:00~ ヌタウナギ発生学から見た脊椎動物の起源
○太田欽也・倉谷 滋(CDB)
- 11 11:15~ カワビシヤ科の姉妹群に関する一系統仮説
○金 誠勇(北大院水産)・宮原 一(共和コンクリート工業株式会社)・今村 央(北大総合博)・仲谷一宏(北大院水産)
- 12 11:30~ テンジクダイ科魚類に見られる孔器列
○山川 武(高知市)
- 13 11:45~ コイ科クルター亜科の頭部側線系
○武内啓明・細谷和海(近大院農)

午後の部 13:30~15:00 (形態)

- 14 13:30~ 池原貯水池および琵琶湖のオオクチバスのフロリダバスとの交雑による形態変化
○横川浩治(香川県多度津町)
- 15 13:45~ キンギョの味覚上行路
○加藤 健・宗宮弘明・山本直之(名大生命農)
- 16 14:00~ 軟骨魚類アカエイ *Dasyatis akajei* の終神経
○安川泰由・宗宮弘明・山本直之(名大生命農)
- 17 14:15~ ドワーフグーラミー *Colisa lalia* の GnRH 受容体の脳内分布
○岩越直宏・宗宮宏明・山本直之(名大生命農)
- 18 14:30~ オイカワ類における頭部側線系の比較
○福田豊章(近大院農)・藤田朝彦(建設環境研究所)・森宗智彦・細谷和海(近大院農)
- 19 14:45~ イタセンパラの腸型の発達過程
○山野ひとみ(近大院農)・小川力也(大阪府立西野田高等学校)・長田芳和(大教大教育)・細谷和海(近大院農)

9月22日(月)

午前の部 8:30~10:15 (分子遺伝・分子解析)

- 20 8:30~ MtDNA から見たニッポンバラタナゴ九州集団の遺伝的構造
○三宅琢也・河村功一(三重大院生資)・中島 淳(九大院工)・
鬼倉徳雄(九大院農)
- 21 8:45~ ミトコンドリア DNA の塩基配列データに基づく両側回遊性カジカ中卵型の遺伝的
集団構造
○塚越英晴(北大院水産)・杉山みどり(北大水産)・
横山良太・後藤 晃(北大FSセ)
- 22 9:00~ ミトコンドリアおよび核 DNA から示唆された西日本のカマツカにおける隠蔽種
○富永浩史(京大院理)・中島 淳(九大院工)・渡辺勝敏(京大院理)
- 23 9:15~ メダカ南北ハイブリッド集団におけるゲノム構成の再検討
○小山直人・久米幸毅・北川忠生(近大院農)
- 24 9:30~ シロウオ日本海型と太平洋型の適応的分化に関与した遺伝子座の探索:ゲノムスキ
ャンを用いた解析
○高橋明香・小北智之(福井県立大)
- 25 9:45~ 仙台湾および常磐沖で採集された魚卵の遺伝子による同定
○斉藤憲治・上原伸二(水研セ東北水研)・手賀太郎(いであ(株)名古屋支店)
- 26 10:00~ 潮間帯に生息するアゴハゼの広域における遺伝的分化と微小地域における繁殖集団
構造
○平瀬祥太郎・菅野愛美・木島明博(東北大院農)

休憩 10:15~10:30

午前の部 10:30~12:00 (分子遺伝・分子解析)

- 27 10:30~ アユの適応遺伝子探索における HiCEP 法の有効性の検証
○武島弘彦(中央水研)・東 陽一郎(東大海洋研)・井口恵一朗(中央水研)・
西田 睦(東大海洋研)
- 28 10:45~ 愛媛県におけるドジョウ類の遺伝的分化と集団構造
○清水孝昭(愛媛県水研セ)・高木基裕(愛大南水研セ)・
村上 裕(愛媛県衛環研)
- 29 11:00~ AFLP 分析によって明らかになったトラフグ属魚類の自然種間交雑
○善家裕太郎・高橋 洋・酒井治己(水大校)・土井啓行(下関水族館)・
松浦啓一(国立科博)・西田 睦(東大海洋研)
- 30 11:15~ 生活環の異なる姉妹種, エゾハナカジカとハナカジカの遺伝的集団構造および系統
類縁関係
○浦西茉耶(北大院水産)・横山良太・後藤 晃(北大FSセ)
- 31 11:30~ ミトコンドリア DNA 塩基配列に基づく, 西日本のカワムツの遺伝的集団構造
○田中 靖(愛媛大院連合農)・關 伸吾(高知大農)
- 32 11:45~ 日本産アカハタの遺伝的多様性と集団構造
○栗岩 薫(国立科博)・千葉 悟(山形大院理工)・本村浩之(鹿大総合博)

午後の部 13:30~15:00 (分布・魚類相)

- 33 13:30~ ユーラシア産淡水魚類の系統地理：フクドジョウを例にして
○横山良太 (北大FSセ)・西城 学 (北大院水産)・後藤 晃 (北大FSセ)
- 34 13:45~ 東シナ海およびその周辺海域における中深層性魚類マイクロネクトンの生態
○空 雅利・井川則幸・山内昭博 (水大校)
- 35 14:00~ 和歌山県古座川河口域周辺におけるカマキリ及びウツセミカジカ (カジカ小卵型) 仔稚魚の分布
○三輪一翔 (京大院農)・原田慈雄 (和歌山水試)・中山耕至 (京大フィールド研)
- 36 14:15~ 横浜林海実験所前海面におけるチョウチョウオ科稚魚の着底パターン
○小栗聡介 (高知大農)・平田智法・平田しおり (宇和島市)・山田秀秋 (西水研)・中村洋平・山岡耕作 (高知大院黒潮圏)
- 37 14:30~ 西日本の純淡水魚類相の形成史を解明するための課題とアプローチ
○渡辺勝敏・小宮竹史・柿岡 諒・富永浩史 (京大院理)・高橋 洋 (水大校)・森 誠一 (岐阜経済大)
- 38 14:45~ 一般化線形モデルを使った網走川における魚類の生息要件解析
○金岩 稔・井上拓也・山本敦也 (東農大)

休憩 15:00~15:15

午後の部 15:15~16:45 (分布・魚類相・保全)

- 39 15:15~ 熊野灘の中深層魚類相
○榊原弘陸・木村清志 (三重大院水産実)・前川陽一・中村 亨 (三重大院練習船)
- 40 15:30~ 小田原市のメダカ・ビオトープにおける現状と課題
○勝呂尚之・安斉 俊 (神奈川水技セ内)
- 41 15:45~ 都道府県版レッドデータブックにみる特定外来生物指定魚種の在来魚種への影響
○中井克樹 (琵琶湖博)
- 42 16:00~ 琵琶湖におけるコイの日本在来 mtDNA ハプロタイプの分布
○馬淵浩司 (東大海洋研)・瀬能 宏 (神奈川県博)・武島弘彦 (中央水研)・中井克樹 (琵琶湖博)・西田 陸 (東大海洋研)
- 43 16:15~ 絶滅危惧種カワバタモロコの最適初期餌料
○宮本良太 (近大院農)・勝呂尚之 (神奈川内水試)・高久宏佑 (三重大院生資)・細谷和海 (近大院農)
- 44 16:30~ フェロモンを用いたオオクチバス駆除：営巣オスの胆汁のメスに対する誘引効果
○藤本泰文 (伊豆沼財団)・高橋清孝 (宮城水産技セ)・佐藤 繁 (北里海洋生命)

休憩 16:45~17:00

午後の部 17:00～18:15 (保全・生理・組織)

- 45 17:00～ ダム貯水池に設置した人工藻場における魚類の出現状況
○高橋弘明・渋谷雅紀(住鉱テクノ)・小島 昭(群馬高専)
- 46 17:15～ 秋田市立大森山動物園内の溜池に生息するゼニタナゴの生息域内保全
○杉山秀樹(秋田農技セ水産)・草薙利美(秋田淡水魚研究会)・
小松 守(大森山動物園)
- 47 17:30～ 保全学的視点から見たトミヨ属雄物型の生活史特性と遺伝的多様性
○高田啓介(信州大理)・小西 繭(信州大SVBL)・伊藤 聡(山形県環境研セ)・
渡邊 潔(山形県置賜森林整備)・佐藤恒治(山形県森林)・
河内正行・大井明彦(山形県内水試)・丸吉繁一(山形県文化遺産)
- 48 17:45～ 沖縄島におけるヒトスジタマガシラの性転換
○秋田雄一(琉球大院理工)・立原一憲(琉球大理)
- 49 18:00～ キントキダイ(スズキ目キントキダイ科)の発音器に関する研究
○西原大輔・山本直之・宗宮弘明(名大生命農)・吉野哲夫(琉球大理)・
大貫敦嗣(麻布大獣医)

口頭発表第2会場

9月21日(日)

午前の部 8:30~10:15(生態)

- 50 8:30~ 安定同位体を用いた琵琶湖と周辺内湖の生息地ネットワークでの在来魚と外来魚の生息地間移動の解明
柴田淳也・苅部甚一・大石麻美子・山口真奈・合田幸子・奥田昇(京大生態研)
- 51 8:45~ ヌマムツの摂餌関連形質と食性
森宗智彦(近大院農)・博野瑠依子(近大農)・稲本雄太・細谷和海(近大院農)
- 52 9:00~ 餌生物組成の異なる池におけるオオクチバスの食性と形態の変異
丸山敦・山中勝博(龍谷大理工学部)
- 53 9:15~ 寄生者を介した森から川へのエネルギー補償：ハリガネムシ類に寄生・誘導されたカマドウマ類のイワナによる捕食
佐藤拓哉(奈良女共生セ)・渡辺勝敏(京大院理)・新妻靖章(名城大農)・金岩稔(東農大)・原田泰志(三重大院生資)
- 54 9:30~ 小川原湖に生息する日本海型イトヨ *Gasterosteus aculeatus* の回遊履歴
上野大輔(北里大院水)・新井崇臣(東大海洋研)
- 55 9:45~ 双方向に性転換するミツボシキウセンにおける幼魚の性分化機構 - 社会的要因の検討
桑村哲生(中京大国際教養)・田中直美・大内英二・竹本淳史・山西直美(沖縄美ら海水族館)
- 56 10:00~ 安定同位体比による琵琶湖のウツセミカジカの回遊行動の解明
田原大輔・鈴木諒介(福井県大)・丸山敦(龍谷大理工)

休憩 10:15~10:30

午前の部 10:30~12:00(生態)

- 57 10:30~ アユモドキの産卵を制御する環境要因
阿部司・相馬康晴・坂本竜哉(岡大院牛窓臨海)
- 58 10:45~ 遊泳魚オイカワの食性変化に注目した河川食物網構造の変化
近藤裕亮・丸山敦・吉岡文子(龍谷大学大学院)
- 59 11:00~ トミヨ属淡水型および汽水型間における強固な同類交配
目黒悠一郎・後藤晃(北大院水産)
- 60 11:15~ ビワマスの河川残留型個体群の存在する可能性
桑原雅之(琵琶博)・井口恵一郎(中央水研)・高橋洋(水大校)・亀甲武志(滋賀県)・来見誠二(今津中)
- 61 11:30~ 黄河産フナの形態変異
井口恵一郎(中央水研)・柿岡諒・渡辺勝敏(京大院理)・趙亜輝・張春光(中国科学院)
- 62 11:45~ アユ一腹卵内における孵化日変異
鶴田哲也・井口恵一郎(中央水研)

午後の部 13:30~15:00 (生態)

- 63 13:30~ 河川流量の増加がエツ仔稚魚の生残に与える影響
○唐崎 佑・鈴木啓太 (京大院農)・中山耕至 (京大フィールド)・
田中 克 (サバ大)
- 64 13:45~ サンゴ礁魚類の種数面積関係に及ぼすパッチリーフの構造とランダム定着の影響
○服部昭尚 (滋賀大教育理数)・渋谷拓郎 (水研セ西海水研)
- 65 14:00~ 温暖化が琵琶湖固有種イサザの個体群変動に与える影響—予報—
酒井陽一郎・熊谷道夫・○奥田 昇 (京大生態研)
- 66 14:15~ アジメドジョウの餌藻類分別
○坂野博之・阿部信一郎 (中央水研)・小林 尚 (松本美須ヶヶ丘高)・
北野 聡 (長野環境研)・南雲 保 (日歯大)
- 67 14:30~ 筑後川水系小石原川におけるアカザ *Liobagrus reini* の成長・成熟と年齢構成
○中谷祐也・川岸基能・乾 隆帝 (九大院農)・兼頭 淳 (建技研)・
富山雄太・鬼倉徳雄 (九大院農)
- 68 14:45~ 秋産卵のタナゴ亜科イタセンパラの摂餌生態
○小川力也 (大阪西野田工高)・長田芳和 (大教大教育)

9月22日 (月)

午前の部 8:30~10:15 (生態)

- 69 8:30~ 雄物川水系に生息するハナカジカ雄による孵化仔魚への保護行動
○熊谷雅之 (地盤環境コンサ)・杉山秀樹 (秋田農技セ水産)・
後藤 晃 (北大FSセ)
- 70 8:45~ ヤマメ, イワナ当歳魚の降下移動
○芦澤 淳・田中友樹・上野岳彦・丸山 隆 (海洋大)
- 71 9:00~ イワナの種内競争に対する個体密度と物理的障害物の影響
○長谷川 功・山本祥一郎 (中央水研)
- 72 9:15~ 有明海におけるシロチチブの繁殖生態
○川岸基能・乾 隆帝・中谷祐也・鬼倉徳雄 (九大院農)
- 73 9:30~ 沖縄島におけるタネカワハゼの生活史
○山崎 望・前田 健・近藤 正・立原一憲 (琉球大理)
- 74 9:45~ チョウチンアンコウの繁殖, 深海の片思い? 相思相愛?
○猿渡敏郎 (東大海洋研)
- 75 10:00~ 沖縄島源河川におけるシマヨシノボリの年齢と成長および流程分布
○緒方直樹・立原一憲 (琉球大理)

休憩 10:15~10:30

午前の部 10:30~12:00 (生態・行動)

- 76 10:30~ サンゴタツ *Hippocampus mohnikei* の、オスのサイズによって変わるメスの産卵数とオスの抱卵数増加に伴う成長率の減少
○大塚 悠 (東海大海洋)・大谷明範 (マリニピア松島水族館)・鈴木宏易 (東海大海洋科学博)・赤川 泉 (東海大海洋)
- 77 10:45~ ナガレホトケドジョウの長期にわたる生残と個体成長, 寿命
○青山 茂 (須磨海浜水族園)
- 78 11:00~ メガマウスザメの摂餌方法
○仲谷一宏・松本瑠偉・須田健太 (北大院水産)
- 79 11:15~ ヨウジウオ科魚類イシヨウジの卵巣構造と卵生産様式について—配偶システムの制約?—
○曾我部 篤 (愛媛大CMES)・松本浩司 (愛媛県長浜高校)・大橋美月 (愛媛大理)・渡部愛己・高田裕美・村上安則 (愛媛大院理工)・大森浩二 (愛媛大CMES)・柳沢康信 (愛媛大院理工)
- 80 11:30~ アユの行動および形態における左右性
○斉田尚希・山岡耕作 (高知大院黒潮圏)・堀 道雄 (京大院理)
- 81 11:45~ メダカ南北集団の群れ行動の比較
○濱口昂雄 (近大院農)・今城龍彦 (近大農)・細谷和海 (近大院農)

午後の部 13:30~15:00 (行動・卵・稚仔)

- 82 13:30~ カダヤシ (*Gambusia affinis*) の雄の交尾行動に及ぼす雌の斑紋の影響
○見玉伊智郎・山中 明・遠藤克彦 (山口大院理工)・古屋康則 (岐阜大教育生物)
- 83 13:45~ ハリヨ雄の子の保護行動における集団間変異
○小北智之 (福井県立大)・森 誠一 (岐阜経済大)
- 84 14:00~ バイカル湖における遊泳性カジカ類固有種の仔魚
○木下 泉・八木佑太 (高知大海洋研)・後藤 晃・横山良太 (北大FSセ)・V.G.シデレワ (ロシア科学アカデミー)
- 85 14:15~ 黒潮の接岸する足摺岬周辺海域に出現する浮遊期仔魚
○岡 慎一郎・平賀洋之 (西日本科技研)・木下 泉 (高大海洋研)
- 86 14:30~ 沖縄島サンゴ礁池に出現するハゼ亜目魚類仔稚魚の出現時期, 出現体長および浮遊期間
○石原大樹・立原一憲 (琉球大理)
- 87 14:45~ ウツボ, アミウツボ, ハナビラウツボ葉形仔魚の形態と分布
○田和篤史・望岡典隆 (九大院農)・小早川みどり (九大理)・内海遼一 (和歌山県)・吉村 拓 (西海区水産研究所)

休憩 15:00~15:15

午後の部 15:15 ~ 16:45 (卵・稚仔)

- 88 15:15 ~ 沖縄島に生息するミミズハゼ属 10 種の形態と生息環境
○前田 健・近藤 正・立原一憲 (琉球大理)
- 89 15:30 ~ 有明海湾奥部河口域におけるニシン目 3 種 (エツ, サッパ, ヒラ) 仔稚魚の分布および食性の比較
○八木佑太・木下 泉・上田拓史 (高知大総合研セ)・藤田真二 (西日本科技研)・久野勝利 (佐賀有明水振セ)
- 90 15:45 ~ 土佐湾におけるイサキ仔魚の鉛直分布
○布部淳一・木下 泉・上田拓史 (高大海洋研)
- 91 16:00 ~ シマドジョウ属数種の卵径
○中島 淳 (九大院工)・鬼倉徳雄 (九大院農)
- 92 16:15 ~ ライトトラップによって採集された沖縄県石垣島と高知県横浪の仔稚魚相
○中村洋平・小栗聡介・山岡耕作 (高知大黒潮)・洪野拓郎 (西水研石垣)・渡邊良朗 (東大海洋研)
- 93 16:30 ~ 有明海筑後川河口域におけるアリアケヒメシラウオおよびアリアケシラウオ仔稚魚の分布機構
○飯野浩太郎 (岡山水試)・兼松陽太 (Z会)・鈴木啓太・唐崎 佑・中山耕至 (京大院農)・田中 克 (サバ大)

休憩 16:45 ~ 17:00

午後の部 17:00 ~ 18:15 (卵・稚仔・その他・分布・魚類相)

- 94 17:00 ~ 沖縄島に生息する両側回遊型ヨシノボリ属 3 種の初期の形態変化と着底後の遡上行動
○近藤 正・緒方直樹・前田 健・立原一憲 (琉球大理)
- 95 17:15 ~ キチジ人工孵化についての試み
○松原 創・岩田大介・木下貴広・清水征晴 (東京農大アクア)・佐藤光栄 (第 2 1 万泰丸)・伊藤雅夫 (東京農大アクア)
- 96 17:30 ~ カラフトマスの卵期および仔魚期における発育速度と水温との関係
○鈴木俊哉 (さけますセ)
- 97 17:45 ~ 痕跡的雌雄同体現象を雌雄性の歴史過程にどう位置づけるか?
○藤井武人 (free)
- 98 18:00 ~ バンコクとその周辺地域 (チャオプラヤー川下流域) の魚類相
○プラチャー・ムシカシントーン (カセサート大)

ポスター発表

(ポスターは、発表初日(9月21日)の午前中までに指定の場所に貼附し、2日間掲示。奇数演題の発表時間は、9月21日の12:30~13:30。偶数演題の発表時間は、9月22日の12:30~13:30。)

ポスター発表第3会場

- 99 ミトコンドリアDNA分析による有明海産と韓国産エツの遺伝的比較
中山耕至(京大フィールド)・郭 又哲(慶尚大)・鄭 忠勲(仁荷大)・鈴木啓太(京大院農)・田中 克(サバ大)
- 100 メダカのスニーカーはいつもスニーキングするのか?
古屋康則・竹内彩乃・小池友香理(岐阜大教育)
- 101 東京湾で採集された背鰭が1基のヘラザメ属魚類の分類
川内惇郎・仲谷一宏(北大院水産)
- 102 関東河川へのオイカワ琵琶湖系統の侵入と関東系統との交雑
高村健二・中原真裕子(国立環境研)
- 103 海草藻場の構造は捕食者の摂餌効率を低下させるか?
堀之内正博(島根大)・水野直樹・城 夕香・藤田真志(東大水実)・佐野光彦(東大院農)・鈴木 謙(東大水実)
- 104 ミヤコタナゴの産卵母貝利用様式
北村淳一・石鍋壽寛・間瀬浩子(観音崎自然博)
- 105 イトヨ自然集団における嗅覚受容体遺伝子ファミリーの適応進化
橋口康之・西田 睦(東大海洋研)
- 106 九州の細流に見られるハスの年齢・成長と成熟
栗田喜久(筑波大院生環科)・中島 淳(九大院工)・兼頭 淳((株)建技研)・乾 隆帝(九大院農)・向井貴彦(岐阜大地球)・河口洋一(九大院工)・鬼倉徳雄(九大院農)
- 107 ロシア連邦アルタイ地方およびアルタイ共和国の魚類相
千葉 悟・後藤 亮(山形大院理工)・Yuri KARTAVSEV(ロシア海洋生物研)・半澤直人(山形大院理工)
- 108 奄美大島名音川および住用川における河川性ハゼ科魚類キバラヨシノボリの巣場所選択
高橋大輔(長野大環境ツ)・井口恵一郎(中央水研)
- 109 コクテンベンケイハゼの双方向性転換と生殖腺構造
豊田克也(鹿大院水産)・櫻井 真(鹿児島純心短大)・真鍋尚也(鹿大教育センター)・四宮明彦(鹿大水産)・須之部友基(東京海洋大)
- 110 カクレクマノミ幼魚間に見られる優劣関係の決定様式
山中康生・松本浩司・門田将和(愛媛長浜高校)・服部昭尚(滋賀大教育)
- 111 希少ホタルジャコ科魚類 *Amia (Amioides) grossidens* Smith and Radcliffe, 1922 の分類学的再検討
山野上祐介(東大院農)
- 112 館山湾に生息するベラ科オハグロベラ *Pteragogus aurigarius* の配偶システム
清水庄太・村瀬敦宣・高山朋弥・益子正和・須之部友基(海洋大)
- 113 小笠原海域におけるウナギ目葉形仔魚の分類と分布
高橋正知(中央水研)・品川汐夫(下関短大)・酒井光夫(遠洋水研)・望岡典隆(九大院農)
- 114 山梨県鰍沢河岸跡の明治期遺構より出土したマグロ属 *Thunnus* 等の大型魚類骨格について(予報)
植月 学(山梨県立博物館)・武藤文人(遠洋水産研究所)

- 115 秋季に放流されたイワナ稚魚の放流効果
 ○亀甲武志 (滋賀県水産課)・片岡佳孝・吉岡 剛・佐野聡哉・菅原和宏・久米弘人・
 氏家宗二 (滋賀水試)・岡村貴司 (滋賀県再生課)・宮本敦史 (三重県津水産室)・
 原田泰志 (三重大生物資源)・甲斐嘉晃 (京大フィールド)
- 116 ニューカレドニアから採集されたキホウボウ科コウトウキホウボウ属の 1 未記載種
 ○河合俊郎 (国立科博)・仲谷一宏 (北大院水産)・Bernard SERET (MNHN)
- 117 耳石解析により明らかになったトウヨシノボリ縞鱗型の回遊履歴
 ○綱川孝俊 (北里大院水)・鈴木寿之 (兵庫県立尼崎北高)・新井崇臣 (東大海洋研)
- 118 日本産トラザメ *Scyliorhinus torazame* の形態比較
 ○六車香織・吉野哲夫 (琉球大理)
- 119 日本初記録のアシロ科魚類 *Glyptophidium argenteum* と *G. lucidum*
 中江雅典・○松浦啓一 (国立科博)
- 120 オドリハゼ属の分類学的再検討
 渋川浩一 (長尾財団)・○鈴木寿之 (兵庫県立尼崎北高)・瀬能 宏 (神奈川県博)
- 121 カレイ目魚類における嗅覚器官の不相称性
 ○太田真由加・佐々木邦夫 (高知大理)
- 122 琉球列島河川より得られたボウズハゼ類 3 種に関する知見
 ○塩根嗣理 (いであ)・亀田和成 (黒島研)
- 123 農業水路におけるカワバタモロコ保全のためのゾーニング手法
 ○田代優秋 (徳島大環境研セ)・佐藤陽一 (徳島県博)
- 124 タンガニイカ湖産エビ食シクリッド 5 種とそれらに捕食されるヌマエビの左右性の動態
 ○竹内勇一・堀 道雄 (京大理)
- 125 インドネシア沖インド洋で採集されたワニトカゲギス目魚類の分類学的研究
 ○山本みつ美・仲谷一宏 (北大院水産)
- 126 日本産ヤツメウナギ類の種同定のための分子マーカー探索
 ○岡田和訓 (筑波大生物学類)・山崎裕治 (富山大院理工)・諸澤崇裕 (筑波大院生命)・
 中谷祐也 (九大院農)・和田 洋 (筑波大院生命)
- 127 秋田県皆瀬川におけるアカザの成熟と二次性徴
 ○田辺信吾 (葛西臨海水族園)・杉山秀樹 (秋田農技セ水産)
- 128 ミトコンドリア DNA 塩基配列から推定されたキホウボウ科魚類の系統類縁関係
 ○高田陽子・河合俊郎 (科博)・佐藤 崇 (東大海洋研)
- 129 塩基配列によって支持された *Acentrogobius kranjiensis* と *A. malayanus* の稚魚の形態と出現パターン
 ○横尾俊博 (島根大汽水研)・坂本 崇 (海洋大)・加納光樹 (茨城大)・茂木正人・
 河野 博 (海洋大)・Prasert TONGNUNUI (Rajamangala Univ. Tech.)・黒倉 寿 (東大農院)
- 130 沖縄島の南風原ダムに定着した外来魚類の食性
 ○石川哲郎・立原一憲 (琉球大理)
- 131 イシダイにおける発生段階区分および体節形成期以降の始原生殖細胞の動態
 ○小林 徹・田中裕己・吉野一平 (近大農)
- 132 経済評価ツールで測るシナイモツゴ生息地の重要度
 ○小西 繭 (信州大SVBL)・田崎伸一 (有限会社エコシス)・高田啓介 (信州大理)・
 井口恵一朗 (中央水研)
- 133 福井県南川に生息するカジカ中卵型の遡上生態
 ○富田賢司・田原大輔 (福井県大)
- 134 マイクロサテライト DNA 多型による愛媛県におけるドジョウの遺伝的多様性と攪乱
 ○高木基裕 (愛媛大南水研セ)・大山昭代 (愛媛大農)・清水孝昭 (愛媛県水研セ)

- 135 冬の千曲川でカワウが食べた魚たち
○棗田孝晴・鶴田哲也・井口恵一朗（中央水研）
- 136 The revision of the synapomorphies of the family Uranoscopidae
○Veera VILASRI（北大院水産）・今村 央（北大総合博）・仲谷一宏（北大院水産）

ポスター発表第4会場

- 137 北西太平洋マリアナ海域から採集された希少なデメニギス科魚類 *Dolichopteryx anascopa* Brauer 1901
○水澤信之（東海大院海洋）・高見宗広（東海大院生物科学）・福井 篤（東海大海洋）
- 138 奄美大島におけるキバラヨシノボリの遺伝的多様性と分化
○矢野 諭（愛媛大農）・高木基裕（愛媛大南水研セ）・橋本美穂（愛媛大農）・大原健一（岐阜河川環境研）・高橋大輔（長野大環境）・平嶋健太郎（和歌山県博）
- 139 カグラザメ類およびツノザメ類の頭部感覚系
○須田健太・仲谷一宏（北大院水産）
- 140 カマキリは河川内で越冬する
○倉上明日香・田原大輔（福井県大）・長友仁郎・小野真宏（若狭湾エネ研）
- 141 日本初記録のフサカサゴ科魚類5種
○本村浩之（鹿大総合博）・桜井 雄（沖縄環境調査）・瀬能 宏（神奈川県博）・篠原現人（国立科博）・萩原清司（横須賀市博）
- 142 ミトコンドリアゲノム遺伝子領域からみた福井県産のカマキリの遺伝的多様性
○梅本康隆（福井工大工）・田原大輔（福井県立大）・岡 友章（北環研）・古本浩之・石黒直哉（福井工大工）
- 143 小規模な溜池における外来種駆除
○古川大恭・丸山 隆（海洋大院）
- 144 高知県横浪半島池ノ浦における底質組成と魚類相の変化
○平田智法（宇和島市）・小栗聡介・市場康之（高知大農）・平田しおり（宇和島市）・深見裕伸（京大瀬戸臨海実）・山岡耕作（高知大農）
- 145 淡水フグ *Carinotetraodon* 属3種の繁殖
○土井啓行・杉山由貴子・野村美沙紀・石橋敏章（下関水族館）・酒井治己（水大校）
- 146 岐阜県可児市産前期中新世アミア科魚類の未記載種
○藪本美孝（北九州自然史博）・合田隆久（愛知県江南市）
- 147 福岡県一貴山川感潮域潮下帯におけるハゼ亜目魚類相と優占4種の出現パターン
○乾 隆帝（九大院農）・江口勝久（佐賀玄海水振セ）・鬼倉徳雄・及川 信（九大院農）
- 148 両側回遊性ヨシノボリ類2種が利用する巣石サイズの比較
○玉田一晃（田辺中）
- 149 タウエガジ科ニセタウエガジ *Stichaeus punctatus* に関する分類学的検討
○山中智之・矢部 衛・仲谷一宏（北大院水産）
- 150 同所的イトヨ2型における捕食リスクと遡上コストに関連した繁殖場所選択
○久米 学（土研自然共生セ）・北野 潤（FH癌研究セ）・森 誠一（岐阜経済大）・鈴木規慈（三重大院生資）
- 151 三重県加茂川におけるウグイの降海時期と降海時の体長
○石崎大介（三重大院生資）・大竹二雄（東大海洋研）・淀 太我・吉岡 基（三重大院生資）

- 152 沖縄島におけるドロクイとリュウキュウドロクイの産卵特性
○上原巨人（県漁港漁場課）・立原一憲（琉球大理）
- 153 ミトコンドリアゲノムと 11 の核遺伝子配列から明らかになったトゲウオ亜目魚類の系統関係
○川原玲香（東大海洋研）・宮 正樹（千葉中央博）・馬淵浩司・西田 陸（東大海洋研）
- 154 ヨシノボリ類の種構成及び産卵場所利用に関する長期モニタリング～河川環境の変化に応じた移入種と在来種の動態～
○伊藤 明（国際農研セ）・井上幹生（愛媛大理生物）・大西秀次郎・大森浩二（愛媛大沿岸環境セ）
- 155 沖縄島産キバラヨシノボリの分子マーカーによる種判別
○川口 亮・吉野哲夫（琉球大理）
- 156 急勾配河川における区間の淵量とイワナ生息量の直線的な関係
○柳生将之（中央水研）
- 157 耳石 Sr/Ca 比分析によって見えたミミズハゼの日和見的な回遊
○三浦太智・山田裕之（弘大農生）・大竹二雄（東大海洋研）・東 信行（弘大農生）
- 158 琉球列島産リュウキュウイタチウオ族魚類 *Dinematichthyini* (アシロ目：フサイタチウオ科) の分類学的再検討
○護得久晋一郎・吉野哲夫（琉球大理）
- 159 ホトケドジョウ *Lefua echigonia* におけるイラストマータグの有効性
○榎本亜矢・相木寛史・間野伸宏・広瀬一美（日大生物資源）
- 160 関東沿岸域に生息するエイ類の寄生虫相に関する研究
○倉島 陽・清水俊哉・谷内 透・間野伸宏・廣瀬一美（日大生物資源科）
- 161 青森県における小河川魚類の群集構造変化とその要因について ～1980年代と2000年代の比較～
○渡邊光一（弘大農生）・佐藤孝司（(株)ドーコン）・東 信行（弘大農生）
- 162 東部太平洋と西部大西洋域におけるソトイワシ科ソトイワシ属 *Albula nemoptera* の分類学的再検討
○日高浩一（鹿大連合農学）・岩槻幸雄（宮崎大農）

ポスター発表第5会場

- 163 同一水系内地点間におけるスナヤツメ北方種の繁殖形質の差異
○山野歩美・山崎裕治（富山大院理工）
- 164 愛媛県重信川におけるヒナイシドジョウの生息場所利用：河床間隙の重要性
○川西亮太（愛媛大院理工）・工藤佑太（愛媛大理）・井上幹生（愛媛大院理工）
- 165 日本近海におけるサケガシラ属魚類の2型とその分類学的検討
○佐藤圭一（沖縄美ら海水）・尼岡邦夫（北海道大学）・戸田 実（沖縄美ら海水）
- 166 ヤマトミズン属魚類ホシヤマトミズンとヤマトミズンの同定
○石森博雄・吉野哲夫（琉球大理）
- 167 オオヨシノボリの分布及び生息密度に見られるダムの影響
○角崎嘉史・川西亮太・井上幹生（愛媛大院理工）・高木基裕（愛媛大南水研セ）
- 168 高知県仁淀川汽水域におけるアユ稚魚の出現と生息環境
○林 芳弘・田井野清也・大河俊之・松浦秀俊（高知水試）
- 169 1998年の大規模サンゴ白化が浦底湾の魚類組成に及ぼした中・長期の影響
○渋谷拓郎（水研セ西海水研）・阿部 寧（SEAFDEC）・橋本和正（水産庁）・高田宜武（水研セ日水研）・林原 毅（水研セ西海水研）

- 170 コイ科スゴモロコ属魚類で過去に起きた交雑によるミトコンドリア DNA の置換
○柿岡 諒・渡辺勝敏 (京大院理)・森 誠一 (岐阜経済大)
- 171 標本に基づく *Cephalopholis cyanostigma* (Valenciennes, 1828) の日本初記録
○桜井 雄 (沖縄環境調査)・川口 亮・吉野哲夫 (琉球大理)
- 172 三河湾から得られたキセルハゼ
○荒尾一樹 (環境科学研究所)
- 173 静岡県の河川より得られた地下水性ミミズハゼ属 *Luciogobius* spp.に見られた遺伝的差異
○川嶋尚正 (静岡水技研)・金川直幸 (藤枝東高校)・板井隆彦 (静岡県大食品栄養科)
- 174 スナヤツメ隠蔽種群における初期発生の比較と孵化のメカニズム
○長井輝美・山野歩美・山崎裕治 (富山大院理工)
- 175 南西諸島の岩礁性タイドプールに見られる魚類群集の多様性
○新垣誠司 (琉球大理工)・土屋 誠 (琉球大理)
- 176 幼形進化的シラスウオ属魚類の起源：ミトコンドリアゲノム全長配列による分子系統解析
○昆 健志 (東大海洋研)・宮 正樹 (千葉中央博)・Rüber Lukas (Nat. Hist. Mus., London)・
中谷将典・佐藤 崇 (東大海洋研)・吉野哲夫 (琉球大理)・西田 睦 (東大海洋研)
- 177 オイカワの筋肉系とその神経支配
○中江雅典 (国立科博)・佐々木邦夫 (高知大理)・中島経夫 (琵琶博)・宮崎佑介 (東大院農)・
松浦啓一 (国立科博)
- 178 マイクロサテライト DNA 分析によるキヌバリ属チャガラ *Pterogobius zonoleucus* の遺伝的集団構造
○野原健司・小北智之・富永 修・青海忠久 (福井県立大)
- 179 絶滅危惧種ヒナモロコの農業用水路における冬期の生息場所
○小早川みどり (九大大学院)・高久宏佑 (三重大院生資)
- 180 干潟のシンボル絶滅危惧種アオギスの生息環境
○重田利拓 (瀬戸内水研)
- 181 日本産オイカワ属における mtDNA の系統と国内移殖の影響
○早川明里 (岐阜大地域)・中島 淳・河口洋一 (九大院工)・鬼倉徳雄 (九大院農)・
向井貴彦 (岐阜大地域)
- 182 タイ科タイワンダイ属 *Argyrops* の分類学的再検討
○吉永周平 (宮崎大院農)・岩槻幸雄 (宮崎大農)

ポスター発表第6会場

- 183 キチジ (カサゴ目:フサカサゴ科) にみられる形態的2型 (予報)
○武藤望生 (京大院農)・甲斐嘉晃 (京大FSERC)・中坊徹次 (京大総博)
- 184 宮崎県における未報告魚類と最近の魚類相の変容について
○泉 光 (宮崎大農)・和田正昭 (庵川漁協)・日高浩一 (鹿大連合農学)・香林亮運 (宮崎大農)・
宮本 圭 (宮崎大院農)・木村清志 (三重大水実)・吉野哲夫 (琉球大理)・岩槻幸雄 (宮崎大農)
- 185 Y字水路におけるサクラマスのフェロモン応答
○山家秀信 (東農大生物産業)・鹿間俊夫・中村英史・山田美穂 (中央水研日光)・
北村章二 (国際農研セ)
- 186 ウチワザメ属 (*Platyrrhina*) の分類学的再検討
○宮本 圭 (宮崎大院農)・岩槻幸雄 (宮崎大農)・仲谷一宏 (北大院水産)
- 187 ミヤコタナゴ飼育集団の雌の繁殖貢献と繁殖期間の関係
○久保田仁志 (栃木水試)・渡辺勝敏 (京大院理)

- 188 北太平洋東部熱帯海域におけるマカジキ科4種の食性
○下瀬 環・余川浩太郎・齊藤宏和（遠洋水研）
- 189 マイクロサテライトDNAによるホトケドジョウ局所集団の遺伝的多様性
○相木寛史・間野伸宏・廣瀬一美（日大生物資源）・小出水規行（農工研）・小牧 弘（日大生物資源）
- 190 静岡市巴川におけるカムルチーの繁殖と食性
○福井正志・赤川 泉（東海大海洋）
- 191 八重山諸島石垣島の陸水域魚類相
神田 猛・○上原 聡（宮大農）・洪野拓郎（西海区水産研究所）
- 192 宮崎県北川下流部バイパス友内川のアマモ場と魚類
神田 猛・○西口政治（宮大農）・山下麻衣子（(株)横浜八景島）・齊藤 剛（西日本技術開発）
- 193 テッポウウオの遠近調節系
○中野洋祐・上山達也・山本直之・宗宮弘明（名大生命農）
- 194 Study on Host-Selection for Spawning by Two Korean Sympatric Bitterlings, *Acanthorhodeus macropterus* and *Rhodeus ocellatus* (Acheilognathinae, Cyprinidae)
○Hyeong-Su KIM・Jong-Young PARK (CBNU)
- 195 Histological Study of Gonad on Rarely Occurring Males in a Korean cobitid complex, *Cobitis hangukensis-Iksookimia longicorpa* complex
○Jong-Young PARK・Ik-Soo KIM・Myung-hun KO (CBNU)
- 196 ギギの外部形態および内部形態における性的二型
○鳥居千晴（三重大院生資）・久米 学（土研自然共生セ）・森 誠一（岐阜経済大）・原田泰志（三重大院生資）
- 197 Oculocutaneous Albinism of the Bitterling, *Acheilognathus signifer* (Osteichthyes; Cyprinidae) from Korea
○MG OH・JY PARK・MJ YOU (CBNU)・EJ KANG・SG YANG・EO KIM・YC JO (SRIFRI)・IS PARK (KMU)・CH KIM (CIFRI)・T ISHINABE (NMI)
- 198 Occurrence of A Hermaphroditic Largemouth bass, *Micropterus salmoides*, from Cheongpyeong Dam, Korea
○Wan-Ok LEE (CIFRI)・Jong-Young PARK・Seung-Un YOON (CBNU)・Jong-Hwa KIM (CIFRI)
- 199 ゼブラフィッシュ胚の卵黄サイズと胴尾部形成過程
○水野寿朗（大阪市大理）
- 200 ミトコンドリアゲノム全塩基配列に基づくトウゴロウイワシ系魚類の分子系統
○Davin H. E. SETIAMARGA（東大海洋研）・宮 正樹（千葉中央博）・山野上祐介（東大院農）・馬淵浩司・佐藤 崇（東大海洋研）・井上 潤（UCL）・西田 陸（東大海洋研）
- 201 東北太平洋岸志津川湾におけるサメガレイの形態発育と着底場所
○阿部拓三（南三陸町自然セ）・佐藤長明（グラントスカルピン）・南 卓志（東北大院農）
- 202 少雌ハレムでみられるワヌケトラギスの性転換
○細川直弘・坂井陽一・橋本博明（広大生物圏）
- 203 室内実験によるホトケドジョウの湧水への集合特性の検証
○守山拓弥（農環センター）
- 204 クダヤガラホヤへの産卵、ホヤによる卵吐き出し、孵化
○青木真知子・赤川 泉（東海大海洋）
- 205 サンカクハゼ *Fusigobius neophytes* の繁殖システムと性転換
○坪井美由紀・坂井陽一・橋本博明（広大生物圏）
- 206 イスズミ属魚類7種の分子系統（予報）
○坂井恵一（のと海洋）・甲斐嘉晃（京大FSERC）・K. CLEMENTS (Auckland)・中坊徹次（京大総博）

- 207 ダルマガレイ科魚類におけるミトコンドリアゲノムの進化
 ○佐藤 崇 (東大海洋研)・宮 正樹 (千葉中央博)・西田 睦 (東大海洋研)
- 208 カジカ科 *Icelus mororane* の帰属の推定
 ○鶴岡 理・矢部 衛 (北大院水産)
- 209 水中スクーターを動力としたソリネットと白尻で採集された初記録 5 種
 ○宗原弘幸 (北大北方セ)・田中善規 (日清丸紅)・二村智之 (海洋研究開発機構)
- 210 鬼怒川の小支流に生息するイワナ, ヤマメ当歳魚に対する両種高齢魚の生態的影響
 ○上野岳彦・田中友樹・芦澤 淳・丸山 隆 (海洋大)
- 211 三重県伊賀市のドジョウ集団に残るジンダイドジョウの痕跡
 後藤良平・藤本陽介・三河内伸一郎・松田貴之 (近大農)・丸山弘明 (三重大院生資)・
 柏木祥平・○北川忠生 (近大院農)
- 212 魚類における左右非対称性の遺伝機構—F1 及び F2 飼育実験からの検証
 ○高橋里英子・足羽 寛 (京大理)・武山智博 (新潟大 自然科学研究科)・
 安房田智司 (北大 北方フィールド研)・幸田正典 (大阪市大理)・堀 道雄 (京大理)
- 213 ヤエヤマギンポの生活史とオスの代替繁殖戦略
 ○安房田智司 (北大FSC)・三浦さおり (OIST)・関 さと子 (京産大)・佐川鉄平 (琉大院理工)・
 酒井一彦 (琉大熱生研)
- 214 ハスの mtDNA 多型にもとづく人為的分布拡大過程の解析
 早川明里 (岐阜大地域)・中島 淳・河口洋一 (九大院工)・鬼倉徳雄 (九大院農)・
 ○向井貴彦 (岐阜大地域)

2008 年度日本魚類学会シンポジウム

アユの初期生活史の多様性と地理的変異を探る

(Diversity and geographical variation in the early life history of the ayu)

会 場：第1会場（グリーンホール）

日 時：2008年9月23日（火・祝） 9:00-18:00

コンピナー：南 卓志（東北大院農）・木下 泉（高知大海洋研）・
高橋勇夫（たかはし河川生物調査事務所）

9:00-9:05 はじめに
木下 泉（高知大海洋研）

I 基調講演

1. 9:05-9:35 アユの多様性
東 幹夫（元・長大教）

II 多様性

2. 9:35-10:00 土佐湾沿岸浅海域でのアユ仔稚魚の分布と回遊
東 健作（西日本科技研）
3. 10:00-10:25 奄美大島におけるリュウキュウアユの初期生活史
岸野 底（河川生態調査）
4. 10:25-10:50 リュウキュウアユからアユをみる一両亜種の生活史からのアプローチ
立原一憲（琉大理）
- 10:50-11:00 〈休憩〉
5. 11:00-11:25 琵琶湖でのアユ仔稚魚の分布生態
田中秀具（滋賀水試）
6. 11:25-11:50 アユ仔稚魚の河口域・内湾での残留の意義
高橋勇夫（たかはし河川生物調査事務所）
- 11:50-12:20 II の討論
司会：木下 泉（高知大海洋研）
- 12:20-13:30 〈昼食〉

III 地理的変異

7. 13:30-13:55 富山湾におけるアユ仔魚の生態
田子泰彦（富山水試）
8. 13:55-14:20 茨城県沿岸域でのアユ仔稚魚の成長相違要因
荒山和則（茨城水試）

9. 14:20－14:55 三河湾でのアユ仔稚魚の分布特性
山本敏哉（矢作川研究所）
- 14:55－15:05 〈休憩〉
10. 15:05－15:30 和歌山県日高川河口周辺海域におけるアユ仔稚魚の成長と生残との関係
原田慈雄（和歌山内水面研）
11. 15:30－15:55 広島県太田川におけるアユ仔稚魚の流下から遡上までの生残過程について
工藤孝也（広島総研水産海洋技セ）
12. 15:55－16:20 土佐湾でのアユの母川回帰性と河川間の初期生態の比較
涌井 海（高知大海洋研）
- 16:20－16:50 III の討論
司会：高橋勇夫(たかはし河川生物調査事務所)
- 16:50－17:00 〈休憩〉
- 17:00－17:55 総合討論
司会：南 卓志（東北大院農）
- 17:55－18:00 おわりに
南 卓志（東北大院農）

シンポジウムの趣旨

アユは、その英名を ayu といい、和名がそのまま英語で通じる数少ない日本産魚類である。このことは、如何にアユが色々な面から研究され世界中に知れ渡っていることを意味している。そのようなアユではあるが、両側回遊型の生活史の約半分を占める海洋生活期の生態、いわゆる初期生活史が解明され始めたのは、本種の文化的・科学的な歴史に比べると、ごく最近と言っても過言ではなく、さらに陸封型アユの宝庫である琵琶湖では、ようやく最近、明らかになりつつある。いずれにしても、1980年代から、アユの日本列島に沿った分布域を反映して、各地で初期生活史に関する研究が展開され、それらの情報が蓄積されつつある。アユは、その亜種であるリュウキュウアユを含めて、北海道から奄美までの広い分布域を持っている。例えば、アユ仔稚魚期の盛期の海水温を、岩手県と高知県で比べると、10度近く差があり、初期成長・発育が異なり、初期戦略は大きく違っているはずであるが、初期生活史が地域間で比較されてはいない。そこで、今回のシンポジウムは、琵琶湖陸封アユおよびリュウキュウアユも含めて、初期生活史を地理的に比較しながら、その共通点と相違点を明らかにし、アユの歴史のかつ空間的な多様性の要因を探りたい。

2008 年度魚類学会シンポジウム

カワバタモロコとは？ —その実態と保全—

(What's the Kawabatamoroko?—situation and conservatin of *Hemigrammocyppris rasborella*—)

会 場：第2会場 1階講 11

日 時：2008年9月23日(火・祝) 9:00-17:15

コンビナー：佐藤陽一(徳島県博)・鬼倉徳雄(九大院農)・細谷和海(近大農)

1. 9:00-9:10 開催趣旨説明
○佐藤陽一(徳島県博)・鬼倉徳雄(九大院農)・細谷和海(近大農)

第1部 カワバタモロコの系統・遺伝的生物地理

2. 9:15-9:45 骨格系から見たカワバタモロコの系統類縁関係
○星野和夫(大分うみたまご)・細谷和海(近大農)
 3. 9:45-10:15 カワバタモロコの遺伝的地理的変異
○岡崎登志夫(中央水研)
- 10:15-10:30 〈休憩〉

第2部 水路のカワバタモロコ—生態・生活史

4. 10:30-11:00 佐賀平野におけるカワバタモロコの生息状況—なぜ豊富に生息するのか？
○中島 淳(九大院工)
 5. 11:00-11:30 成富兵庫茂安の築いた遺産の保存とその周辺の生物多様性
—歴史的文化遺産がカワバタモロコを保全する
○鬼倉徳雄(九大院農)
 6. 11:30-12:00 水路におけるカワバタモロコの生息環境
○佐藤陽一(徳島県博)
- 12:00-13:00 〈昼食〉

第3部 ため池のカワバタモロコ—形態・生態・生活史

7. 13:00-13:30 三重県のため池におけるカワバタモロコの生息状況と形態変異
○赤田仁典(三重水産高)・淀 太我(三重大院生資)
8. 13:30-14:00 カワバタモロコのため池における生活史
○高久宏佑・原田泰志(三重大院生資)・細谷和海(近大農)
9. 14:00-14:30 ため池におけるカワバタモロコの繁殖生態
—いつ、どのような場所を利用するのか—
○鈴木規慈・原田泰志(三重大院・生物資源)・前畑政善(琵琶湖博物館)・
島山絵美(三重大院・生物資源)

10. 14 : 30－15 : 00 ため池におけるカワバタモロコの増殖速度と個体群動態
○田中哲夫(兵庫県立大)・藤田茂宏(オーディオ)・谷本卓弥(伊丹北高)・
山科ゆみ子(ホトケドジョウを守る会)・三浦靖弘(藤井寺工高)
- 15 : 00－15 : 15 〈休憩〉

第4部 カワバタモロコの保全・保護活動

11. 15 : 15－15 : 45 静岡県におけるカワバタモロコの生活史と生息環境, その保全
○金川直幸(藤枝東高校)・板井隆彦(静岡県大食品栄養科)
12. 15 : 45－16 : 15 徳島県におけるカワバタモロコの保全プロジェクト―農家との協働
○田代優秋(徳島大院・工)
13. 16 : 15－16 : 45 カワバタモロコの人工繁殖と系統保存
○松田征也・布施幸江(琵琶湖博)

第5部 総合討論(司会: 鬼倉徳雄)

16 : 45－17 : 15

シンポジウムの趣旨

近年、タナゴ類やアユモドキ、メダカをはじめ、多くの水田域魚類が絶滅の危機にあるという認識が共有されつつある。カワバタモロコもそのような水田域魚類の一つで、環境省のレッドデータブックだけでなく、分布域である西日本のすべての県においてレッドデータブックに掲載されている。本種は日本固有で、日本のコイ科魚類としては体サイズが最小、繁殖期には明瞭な雌雄差が見られるなどの特徴が知られている。しかし、人の生活圏近くに生息する魚類であるにも係わらず、これまで生活史や生息環境などについての情報は限られていた。しかし近年、不十分ながらも徐々に知見が揃いつつある。本シンポジウムでは、カワバタモロコの系統類縁関係や形態、生態、生息状況、現在なされている保全活動などの様々な知見を一堂に会し議論することにより、本種の特性や実態を明らかにすると共に、これからの研究の方向性定め、保全に役立てるために企画した。特に、本種のように広域に分布する希少種を保全するためには、全国を縦断する形での保全・保護ネットワークが必要であり、本シンポジウムをその足掛かりにしたいと考えている。

男女共同参画シンポジウム

日本魚類学会では男女共同参画にいかに取り組むか

会 場： グリーンホール

日 時： 2008年9月21日(日) 15:05-16:00

コンピナー： 日本魚類学会男女共同参画作業部会

昨年、日本学術会議科学者委員会男女共同参画分科会では「学術分野における男女共同参画の取組と課題」と題した報告書をまとめた。その中で平成18年度の日本の女性研究者比が11.9%と、世界的に見て著しく低いことが指摘されている。一方、政府による「第3期科学技術基本計画」（平成18年3月）では、自然科学分野の女性研究者採用率を25%という目標を示して努力を促している。このような社会的要求を日本魚類学会に当てはめて考えた場合、女性会員比率が約5%ときわめて低く、先の目標には遠く及んでいない。今後の魚類学の発展を考えたとき、女性の能力を十分に取り入れ、利用することは必須である。日本魚類学会の現状を認識し、今後学会として何をしていくべきか考えたい。

講演

1. 15:05-15:35 研究分野における男女共同参画の推進について
安田 伸（内閣府男女共同参画局企画官）
2. 15:35-15:45 将来を見据えて魚類学会として男女共同参画にどう取り組むか
西田 睦（魚類学会会長）
3. 15:45-15:55 魚類学会における男女共同参画の現状
小早川みどり（魚類学会男女共同参画作業部会長）

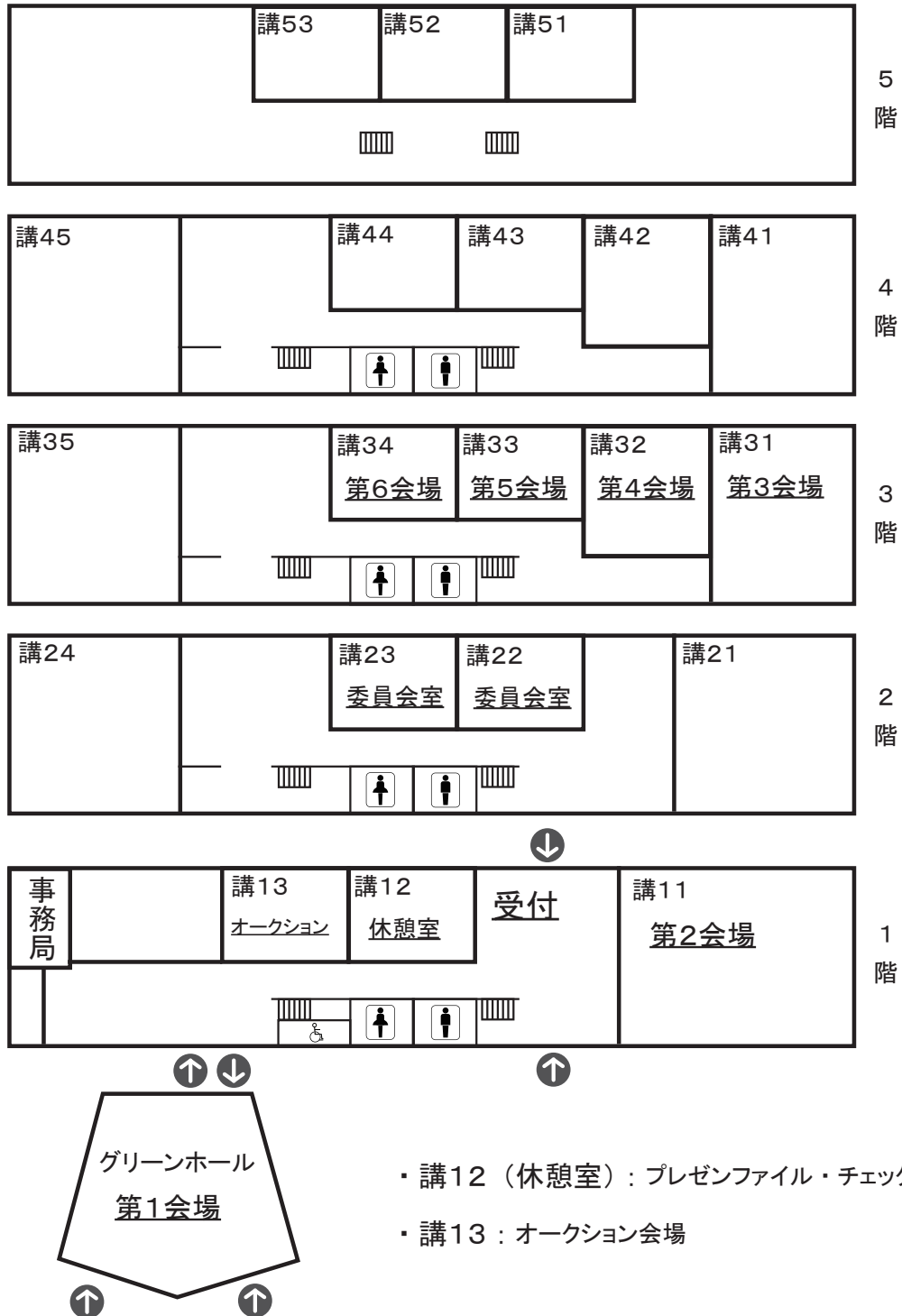
質疑

4. 15:55-16:00 質疑応答

会場配置図

(愛媛大学 共通教育講義棟・グリーンホール)

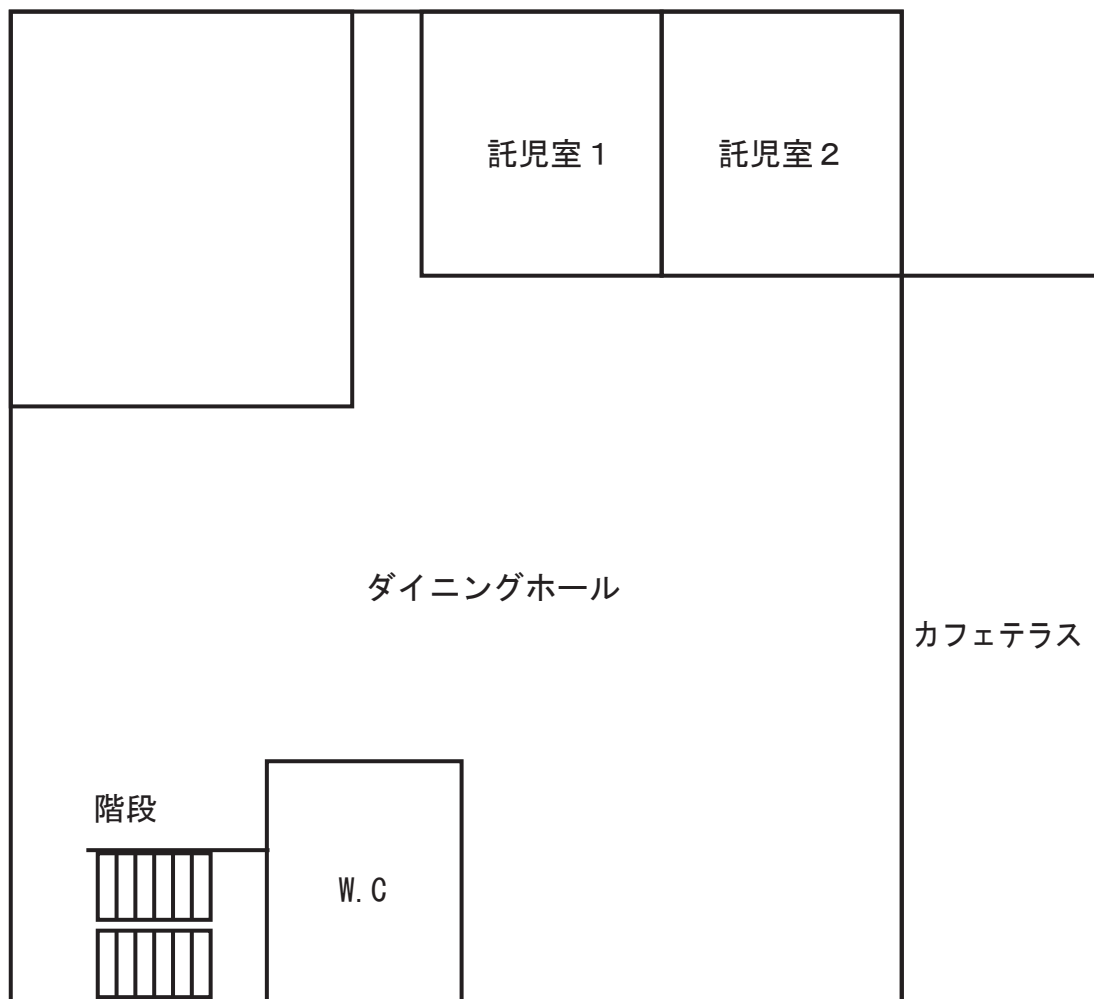
- ・グリーンホール（第1会場）：口頭発表，総会・受賞者講演，シンポジウム，男女共同参画懇談会
- ・講11（第2会場）：口頭発表，シンポジウム
- ・講31～34（第3～6会場）：ポスター展示・発表
- ・講22（委員会室）：編集委員会
- ・講23（委員会室）：評議委員会，自然保護委員会



- ・講12（休憩室）：プレゼンファイル・チェック
- ・講13：オークション会場

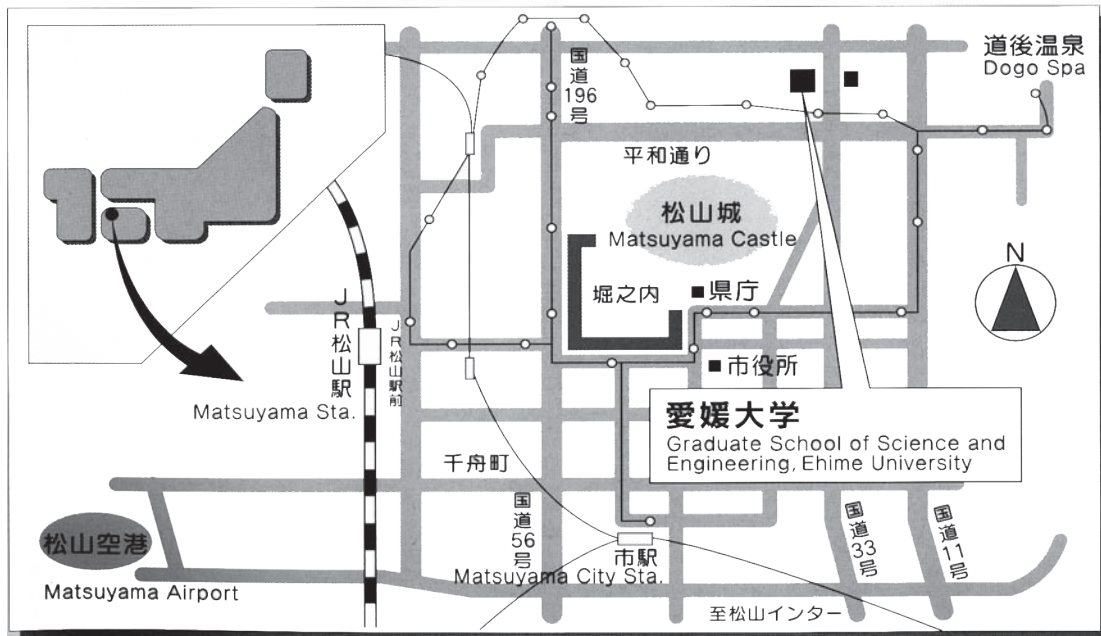
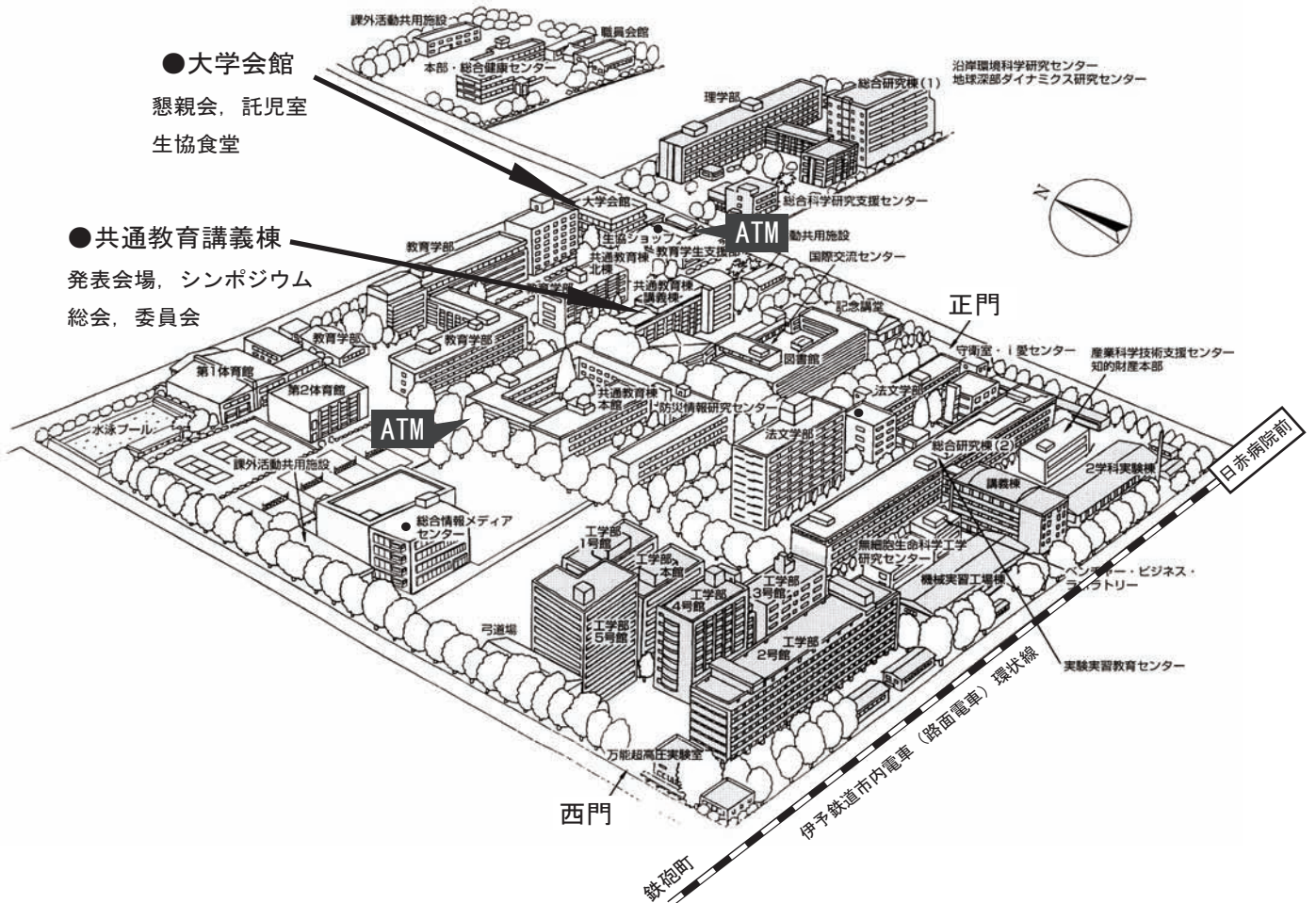
託児室の位置

(愛媛大学 大学会館2階)



大学会館 2階 平面図

会場へのアクセス：愛媛大学城北キャンパス



□ JR松山駅から

—伊予鉄道市内電車をご利用の場合—

1, 2番（いずれも環状線）「赤十字病院前」
下車，北へ徒歩2～5分

—伊予鉄バスをご利用の場合—

都心循環東西線（東・西循環）「愛媛大学前」
下車